



たたみはどうやって作るの

たたみの発達

あなたの部屋は、洋間ですか。それとも、たたみがしいてある和室ですか。このごろは、洋間が増え、たたみをしいた部屋がない家もありますね。

たたみは、古い時代から使われてきました。最初は部屋の一部分にしいて、座するための道具の一つでした。その後、部屋にたたみを置いておくようになり、やがて部屋全体にたたみをしくようになりました。たたみの大きさも、統一されるようになりました。

たたみの仕組み

たたみは、たたみ床、たたみ表、たたみへりからできています。

たたみ床は、よくかわかしたわらを麻糸などでぬって固めた、たたみの台です。たたみ表は、たたみ床の上にかけるもので、イグサを利用します。たたみへりは、たたみの長い辺をふちどる布のことです。

たたみの作り方

たたみは、たたみ表加工、たたみ床の製造、たたみ表はり・ふちつけの工程があります。

たたみ表加工は、まず、イグサを染め、機械にかけてイグサを織ります。

たたみ床は、「うらこも」とよばれるござの上、わらをしきます。この上に1センチメートルに切ったわらをしきつめ、さらに、わらを重ねていきます。これを圧縮しながら、麻糸でぬいます。

たたみ表はり・ふちつけは、まず、たたみ床の長さに合わせて、たたみ表を切ります。次に、たたみふちをたたみ表にはり、寸法をそろえて、はしを切り落とします。たたみふちを折り返し、たたみにぬいつけると完成です。（監修・保岡 孝之）

